

風を感じて

令和6年4月より緩和ケア病棟師長として配属になりました。

私は8年前に癌で父を亡くしました。

病気が分かった当初より根治治療は難しいと言われ、余命も本人に告げられていました。

本人は「なんでもすぐにいうんじゃの、隠さんのんじゃの」と驚いていました。

内服治療はしていましたが、父より「自分の棺桶は自宅だ」と繰り返し言われ、自宅で最期を迎える覚悟を決められていたようでした。一度ポート造設という形で当院での入院も経験しました。何かあった時には頼れる場所があるということに安心感を覚えた事を思い出します。在宅でも多職種の方々に関わっていただき、最期は本人の希望どおり自宅から送り出すことができました。

緩和ケア病棟は6床と多くはない病床ですが、担っている役割は大きいと感じています。

病棟理念に『患者さまの生き方や意思を尊重した緩和ケア』を行うと掲げてあります。

緩和ケア病棟に勤務するまでは、穏やかな時間を過ごし、しんどさ・痛みを軽減してもらえる場所という認識でいました。

勤務するにつれ、ここは患者さまが周囲の方々と今まで生活していた環境に近い形で生活する場所だと感じるようになりました。

まだ手探りで勤務している状態ですが、“何かあれば頼れる場所なんだ”と、私が父と過ごしていた時に感じた安心感を皆さまにも持っていただけるように、知識を深め感性を高められるように日々過ごしていければと思っています。

当院の緩和ケアは、緩和ケア病棟だけでなく一般病棟に入院中の患者さまや外来に通院中の患者さま、在宅で過ごされている患者さまの症状緩和にも応じています。多職種で患者さま、ご家族に寄り添い穏やかに自分らしく過ごして頂けるように努めております。いつでもお気軽にご相談ください。



緩和ケア病棟師長
き た か と も こ
橘 高 智 子



緩和ケア病棟スタッフ

緩和ケア病棟多職種紹介



主任看護師
いちちょう えみ
壹丁 絵美

令和6年4月から数年ぶりに緩和ケア病棟へ配属となりました。

以前勤務していた急性期病棟とは異なり、病気に伴う心と体の痛みを和らげることを目的とした緩和ケアでは、改めて学び直すことが多いと感じております。

緩和ケア病棟では、患者さまやご家族の意思や希望を尊重しながら、少しでも穏やかな時間を過ごしていただけるよう、看護師としてできる限りのサポートをさせていただいています。その中には、日々の体調管理やケアだけでなく、季節のイベントの企画や、ご家族との時間を大切に過ごせるような工夫など、緩和ケア病棟での時間がより良い時間となるよう考えております。

また、緩和ケア病棟では多職種のスタッフが勤務しており、一人の患者さまをみんなで支えています。多職種が連携し、入院中のケアだけでなく、在宅支援もさせていただいています。

私自身まだまだ未熟ですが、日々学びながら、患者さま、ご家族に寄り添った看護を提供できるよう努めていきたいと思っております。



理学療法士
たなか しんたろう
田中 慎太郎

訪問看護ステーションに配属になり、4年が経とうとしています。

理学療法士として、身体的な痛みの緩和だけではなく、心のケアも大切にしながら個々のニーズに合わせてリハビリテーションを提供しています。

利用者さまが、住みなれた地域でその人らしく生活できるように、在宅生活で関わる多職種と連携を図りながら、皆さまのお力になれるように努めます。

どうぞお気軽にご相談ください。

ボランティアだより

「ティーサービスボランティア」

ボランティア 細谷 優子
ほそや ゆうこ

「ガリゴリ、ガリゴリ」という音とともに香ばしい香りが漂い始めると毎月二回のティーサービスの始まりです。今では珍しい、木製のミルで挽いた豆でいれたコーヒーを飲みながら、ハーモニカやピアノの演奏が始まると、懐かしい曲に合わせ手拍子や歌声、時には笑い声が聞こえる、そんな居心地の良い空間が広がっています。私にとってもこの場所は、心安らぐとても大切な場所です。思えば二十数年前、父の闘病中病院で介護をしながら、以前のように家族そろってコーヒーの一杯でも飲めたら…との思いをずっと胸に抱えていたことがきっかけで始めたボランティアでした。これからも、緩和ケア病棟で過ごされる皆さまがほっと一息つける、そして少しでも笑顔になれる、そんなひとときのお手伝いをさせていただけたらと思っております。



新スタッフ紹介



主任作業療法士
でば まゆこ
出羽 真由子

今年度4月より訪問看護ステーションに配属になりました。緩和ケア病棟から退院された利用者さまのご自宅にも訪問しております。

身体機能維持のための運動や生活がしやすくなるように福祉用具や生活動作の提案などをさせていただきます。

病状や生活の変化だけでなくお気持ちにも寄り添ったりハビリを心がけております。

その人らしく生活が送れるようご支援に努めてまいります。よろしくお願いいたします。



主任社会福祉士
ふじ かわ はる み
藤川 晴美

4月より緩和ケア病棟を担当させていただきます。緩和ケアの相談窓口として、ご本人、ご家族、医療機関などからの相談を受けています。

入院後、痛みなどの症状が落ち着けば退院が可能となり、その際には退院支援も行っています。在宅サービスや施設等の紹介を行い、患者さまやご家族が望まれる生活が安心して送れるよう、共に考えよりよい選択ができるようお手伝いをしています。

まだまだ未熟な点が多く学ぶことも多いですが、患者さまやご家族に「相談してよかった」と思っていたけるように努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。



主任管理栄養士
つち やま あ き
土山 亜紀

令和6年4月より緩和ケア病棟を担当しております。患者さま一人ひとりの状態に応じて、食事量や嗜好に配慮して献立を調整し、噛む・飲み込む力に合わせた食事の提供を心がけています。

『食事』は体への栄養補給だけではなく、食事を通して季節を感じたり、「食べたい、食べられた、美味しい」と思うことで心を満たしてくれるものでもあります。

患者さまやご家族の思いに寄り添い、多職種と連携を図りながら、喜びや安らぎにつながる食事支援に努めていきたいと思ひます。



看護師
にし はる み
西 元美

今年度4月から訪問看護ステーションにて勤務しております。

緩和ケア病棟から自宅へ退院される患者さまは、様々な思いを抱えておられます。

住み慣れた自宅で過ごすことができる嬉しさの反面、家族に迷惑をかけるのではないかと辛さ、痛みなどの症状が強くなるのではないかと恐怖など様々です。また、ご家族や周りの方も介護に不安を抱えておられます。

そのような思いを少しでも和げられるよう、緩和ケア病棟のスタッフと連携を取りながらご支援していきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



ご家族の声



みつぎ総合病院緩和病棟の皆様へ

この度は妻の緩和ケア入院・訪問看護で大変お世話になりました。お陰様で苦しみことなく看取ることができました。最期は付き添いもさせて頂き、本当に感謝しております。妻が亡くなる少し前にノートに記した短い文章を紹介させていただきます。

「心にしみる看護の数々 感謝、感謝です。本当にありがとうございました。」

シャープペンで弱々しく書かれていましたが、妻の本心であり、私も同じ思いです。
ありがとうございました。

T・M様



病棟のひとコマ



お部屋で
抹茶サービス

コーヒー豆を挽いて
病棟にいい香りがたどいます



節分
鬼も一緒に楽しんで



ひなまつり
いちご大福おいしそう



ベランダの春



リハビリで押し花



夏祭り



ティーサービス
音楽と共に



桜の下で音楽鑑賞

緩和ケア病棟基本方針

- (1) 病病連携・病診連携に基づいた在宅ホスピスと施設ホスピスをシステムの両輪とし、さらにボランティアなど地域全体で支える独自の地域に密着した緩和ケアシステムを構築する。
- (2) その人らしく充実した時間を送っていただくために、早い時期から在宅・施設において柔軟で継続的な関わりを持つ。
- (3) 患者さま・ご家族の満足と安心を得られるように、質の高い・心のこもったサービス提供に努め、患者さま・ご家族の声や第三者評価などにより、ケアの質の維持・向上を目指す。

平成22年4月1日制定
令和3年4月1日改定

緩和ケア理念

- (1) 患者さまの生き方や意思を尊重した緩和ケア
- (2) 早い時期からの継続的な緩和ケア
- (3) 在宅および施設における総合的な緩和ケア
- (4) 保健・医療・介護・福祉の連携による質の高い緩和ケア
- (5) 地域に密着した地域緩和ケア

平成14年4月1日制定
令和3年4月1日改定

★ご意見・ご感想をお聞かせください。

公立みつぎ総合病院

<http://www.mitsugibyouin.com>

〒722-0393 広島県尾道市御調町市124番地
TEL0848-76-1111 FAX0848-76-1112

緩和ケア病棟直通 0848-76-1328